

I 事業の状況

1、写真に関する芸術・創作活動の奨励、人材の育成（決算 3,746,132 円）

(1) 写真教育

[1] 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を平成 21年4月～平成 22年3月にかけて実施。

全国の小学校 51校、指導者 32名、参加児童数 1,692 名。（5年間の合計 275校11,997名）。

富士フイルム（株）の協力で行った。また昨年このプログラムに参加した児童の中から 282名の作品を「“PHOTO IS” 10,000人の写真展 2009」（主催：富士フイルム）で、「“PHOTO IS” 小学生の眼」として出展。6月 26日～7月 2日、東京・ミッドタウンホールを皮切りに、福岡、広島、大阪、名古屋、仙台、札幌の会場で9月まで展示され全国の約 11万人が鑑賞した。

[2] 「エコトークフォトコンテスト」 協賛企業：クラレ（決算 2,000,000 円）

クラレが実施している「エコトークフォトコンテスト」を都近郊の9つの小学校で実施。参加児童 523名の作品を選考し、8月に長野県のNPO法人が実施している山の家で親子の体験実習を行った。22年3月 20日（土）～ 26日（日）に作品約 100枚を新宿の東京都庁北館45階展望室で展示。

[3] 第3回高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」を、全国高等学校文化連盟写真専門部との共催で、8月に2カ所で行った。

第1回目：8月 7日（金）秋田県立博物館・学習室。講師：田沼武能、松本徳彦、小松ひとみ。教師受講者 19名。第2回目：8月 12日（水）長崎・活水女子大学・大会議室。講師：島田聡、芥川仁、岩崎隆。教師受講者 17名。ニコンカメラ販売（株）とエプソン販売（株）の協力で行った。

(2) 技術研究会

[1] 「写真家必須！メモリーカードの使いこなし術・豆知識」を、4月 15日（水）、JCII会議室で行った。講師：サンディスク（株）、参加者 90名。

[2] 「光ディスクへのデジタル写真データの安心保存とレーベル印刷の活用」を6月 12日（金）大阪・愛日会館で行った。参加者 56名。

[3] 「写真家向け画像処理ソフトウェアの活用～簡単に直感的にできるモノクロ加工と HDR 画像処理～」を 10月21日（水）JCII会議室で行った。講師：田村幸市郎（（株）ジャングル）、塩谷真（（株）モステンダー）、権野圭子（（株）ソフトウェア・トゥー）。参加者 55名。

[4] 「EOS の新基準、デジタル一眼レフの常識を革新するニューテクノロジー」を 10月30日（金）キヤノンマーケティングジャパン（株）大阪支店で行った。協力：キヤノンマーケティングジャパン（株）。参加者 22名。

[5] 「写真家必須！メモリーカードの使いこなし術・豆知識 撮ることも残すことも考える方へ」を12月 4日（金）大阪・愛日会館で行った。講師：サンディスク（株）宮本貴通、岩崎健。参加者44名。

[6] 「これであなたもプリントマイスター！顔料インクの特性とプリント技術」を1月 22日（金）大阪・愛日会館で行った。講師：エプソン販売（株）・鶴澤淑人、松岡達也、三浦央。参加者 48名。

[7] 「最新中判デジタルカメラ事情とそのデータの扱い方」を3月 17日（水）JCII会議室で行った。講師：マミヤ・デジタル・イメージング（株）・吉澤隆史、秦達夫（JPS 会員）。参加者 63名。

(3) 見学会

[1] 「プロ写真家のための工場見学会」を6月 15日、22日、凸版印刷（株）板橋工場で行った。参加者 71名。

[2] 「写真家向け！7色印刷機工場見学」を9月 17日相互印刷工芸（株）で行った。参加者 22名。

[3] （関西）「プロ写真家のための凸版印刷海老江・大淀工場見学会」を 11月27日（金）凸版印刷（株）工場で行った。参加者 12名。

[4]「新 ラボ事情を学ぶ」を1月21日(木)5ヵ所のラボで行った。協力・富士フイルムイメージテック、堀内カラー(杉並)、写真弘社、東京カラー工芸社、フォトグラファーズ・ラボラトリー。参加者5ラボ 39名。

- (4) セミナー「最新 Photoshop 画像テクニック 実用的なデジタルフォト運用法・基礎編 / 実技編」を2月3日、池袋サンシャインシティ文化会館で行った。講師：早川廣行(株)電画代表・フォトディレクター)鹿野宏(株)Lab(エルエービー)。参加者 127名。

2、写真の歴史、表現に関する展覧会の開催(決算24,770,121円)

(1)「2009JPS展」後援：文化庁

公募作品受付：1月10日(土)～23日(金) 作品審査：2月14日(土)

審査員：田沼武能(審査員長)、石田立雄(学研CAPA編集長)、海野和男、白鳥真太郎、木村恵一

応募総数：2,297名(内22才以下 149名)、応募作品総数：7,350枚(内22才以下 469枚)

総展示数：422名20校650枚(内22才以下 42名91枚)、後援：文化庁ほか

入賞・入選者数：286名494枚(文部科学大臣賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞33名、入選199名。22歳以下：奨励賞5名、優秀作品37名)

会員テーマ：シリーズ日本 第3回「日本の住」会員出展数：136名136枚

イベントコーナー：「ヤングアイ」参加校 20校。総入場者数：10,052名。2009JPS展副賞提供社(46社)。

入場料(各展共通)：一般700円(団体割引560円)、学生400円(団体割引320円)、高校生以下無料、65歳以上400円(東京、広島、名古屋展)65歳以上無料(関西展)※団体は20名以上

◆東京展 5月23日(土)～6月7日(日) 東京都写真美術館、入場者数 4,395名

後援：文化庁、共催：東京都写真美術館

表彰式：5月24日(日)東京都写真美術館、参加者 192名

祝賀会：5月24日(日)ピアステーション恵比寿2階、参加者 160名

講演会：「英伸三の写真記録・一所懸命の時代」講師：英伸三、参加者約 120名

イベント：セミナー「自分らしい写真にめぐり合う旅」5/30 講師：ハービー・山口、参加者38名、協力：ライカカメラジャパン(株)。

撮影会「だいたいな人を撮る」6/6 講師：ブルース・オズボーン、参加者38名、協力：キヤノンマーケティングジャパン(株)、サンディスク(株)、ベルボン(株)。

入賞作品ガイドツアー 5/29、参加者20名、6/7参加者50名 ガイド：島田聡。

◆広島展 6月12日(金)～18日(木) 広島市アステールプラザ、入場者数：1,242名

後援：文化庁、広島県、広島県教育委員会、広島市、広島市教育委員会

表彰式：6月14日(日) 広島市アステールプラザ、講評：熊切圭介、

講演会：「写真とわたし」講師：大石芳野、参加者：128名

◆名古屋展 7月7日(火)～12日(日) 愛知県美術館展示ギャラリー E・F、入場者数：1,360名

後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会

表彰式：7月11日(土) 愛知県美術館アートスペースA

講演会：「里山から熱帯林まで多様な昆虫の世界」講師：海野和男、参加者72名

イベント：フォトウォーキングと講評・7月11日(土)円頓寺界限撮影会と講評会、講師：海野和男、参加者56名

◆関西展 10月6日(火)～11日(日) 京都市美術館(岡崎公園内)、入場者数：3,055名

後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会

表彰式：10月6日(火) 講評：熊切圭介、講演会：「写真とは何かー水俣、韓国、ベトナム、ロシアなどを撮影・取材して」講師：桑原史成 参加者185名

(2)「2009年新入会員展ー私の仕事」

7月16日(木)～22日(水)、アイデムフォトギャラリー「シリウス」出展者42名、展示作品数84枚。入場者数503名。オープニングパーティー：7月16日、参加者107名。

8月7日（金）～13日（木）富士フィルムフォトサロン大阪。参加者 3,615名。

3、写真に関する著作権の啓蒙・普及活動（決算 1,181,708円）

(1) 研究会

- [1] 第1回「デジタルネット環境における著作物の利用と管理」を7月22日（水）、JCII会議室で行った。講師：齊藤博（弁護士）、参加者 109名。
- [2] 第2回「一目でわかる写真の著作権」を11月30日（月）JCII会議室で行った。講師：亀井弘泰弁護士。参加者 135名。
- [3] 第3回「一目でわかる写真の著作権」を2月17日（水）大阪・愛日会館で行った。講師：亀井弘泰弁護士。参加者 48名。
- [4] 「フォトコンテスト応募要項における著作権」について二次継続調査をした。
- [5] 「保護期間の満了した写真著作権の復活」について他団体と協議した。

(2) 「Google・ブック検索の訴訟の和解案」に対する抗議声明について日本写真著作権協会（JPCA）に協力した。

(3) 著作権よろず相談室を毎月第3水曜日に開催。相談数 13件。

4、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰（決算 4,505,968円）

(1) 第35回「日本写真家協会賞」を、『DAYS JAPAN』誌に贈呈した。贈呈式は12月9日（水）アルカディア市ヶ谷で行った。

受賞理由・創刊5周年を迎えた『DAYS JAPAN』誌は、世界の現実を直視した優れたドキュメンタリーフォトを掲載し続けている。掲載された作品がピューリッツァー賞を受賞するなど、フォトジャーナリズムが厳しい状況におかれている中で、常に高い水準を保ちながら発行を続けている功績に対して。

(2) 「2009JPS展」入賞・入選者 286名を5月24日、東京都写真美術館ホールで表彰した。

(3) 新進写真家の発掘と活動を奨励するために、主としてドキュメンタリー分野で活躍している30歳までの写真家を対象とした第5回「名取洋之助写真賞」は、公募7月1日（水）～8月20日（木）、応募者 52名53作品。8月24日、金子隆一、椎名誠、田沼武能の3氏によって選考を行い、名取賞に久塚真央「ゆびさきの星 つまさきの星 こころのなかの星」（モノクロ）を、奨励賞に三澤史明「幸福論」（カラー）を選び、授賞式を12月9日（水）、アルカディア市ヶ谷で行った。

(4) 第5回「名取洋之助写真賞受賞作品展」を東京、大阪で開催した。

平成22年1月29日（金）～2月4日（木）東京・富士フィルムフォトサロン、入場者 4,718名。

平成22年2月26日（金）～3月4日（木）大阪・富士フィルムフォトサロン、入場者 2,934名。また、福島市写真美術館で3月8日（月）～17日（木）に展示した。入場者 470名。

5、写真に関する図書、機関誌等の編集刊行（決算 23,357,365円）

- (1) 『日本写真家協会会報』を発行。年3回（No.141～143）
- (2) 『JPSニュース』を発行。年11回（No.463～473、総会資料）
- (3) 『2009JPS展作品集』を発行。（5月）
- (4) 『会員名簿 2010～2011』（会員証製作費含む）（1月）

6、写真に関する国際交流（決算 523,409円）

(1) 国際交流セミナー、研究会の開催

- [1] 「『パレスチナ 1948・NAKBA』DVD上映&広河隆一氏講演 時代を読みとり世界を伝えるフォトジャーナリストとは」を6月17日（水）、JCII会議室で行った。講師：広河隆一（写真家）。参加者 88名。

- [2] 「新進写真家が見た！最新海外コンペティション・フェスティバル事情」を1月27日（水）JCII会議室で行った。講師：大和田良、池谷友秀、渡部さとる（パネリスト、写真家）、川上義哉（聞き手、インプレスジャパン・デジタルカメラマガジン編集長）。参加者72名。

[3]「久保田博二の軌跡と展望」を2月 17日(水) JCI会議室で行った。講師：久保田博二(写真家)、細江英公(写真家)。参加者 80名。

(2) 来日した海外写真家との交流：5月 20日にミャンマー人写真家ティン・アウン氏が、また6月2日に韓国の写真家・韓静湜(Han Chung-shik)氏が表敬訪問された。

7、その他目的を達成するために必要な事業(決算7,610,537円)

(1) 第3回フォトフォーラム「自然、生命、そして写真」を10月3日(土)、有楽町・朝日ホールで開催(共催・朝日新聞出版、後援・文化庁)。11:00～協賛6社による機材技術展：13:00～パネルディスカッション。パネリスト：今森光彦、関野吉晴、田沼武能、司会・奥田明久(『アサヒカメラ』編集長)。協賛：エプソン販売(株)、オリンパスイメージング(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、(株)ニコンイメージングジャパン、富士フイルム(株)、(株)リコー。参加者 517名。

(2) ホームページ、インターネットを利用したサービス業務を実施。

(3) ネガカバー、ファイル、トートバッグなど写真整理用品の製作及び販売。

(4) 相互祝賀会を12月9日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。参加者 309名。

8、その他目的を達成するために必要な経費(決算22,481,595円)

9、委嘱事業

(1) 文化庁委嘱事業「我が国の写真フィルムの保存・活用に関する調査研究」(決算9,730,639円)平成19、20年度が主に物故写真家の遺族の元を訪ねての写真原板の保存状況調査と海外の施設調査であった。21年度は遺族の元に残されている写真原板を借り受けて、写真集等に使用されている写真原板の保存管理の実態を調査し、個々の原板の保存状態とスキニングによるデータベース作りを、大学院で写真保存等を習得したスタッフ4名で作業を行った。調査対象8人、約9,200本(含む齧枚)。諮問調査委員会議4回。